

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	NPO入門	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小阪 亘	1年	ptt797@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業のテーマは「アクション」。NPOのスタッフやリーダーとして実際に活動している人を招き、沖縄の社会課題解決に向けて活動する現場について学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーとワークを行いながら社会課題に気づき、アクションを起こす力を育むことを目的とする。</p>	<p>この講義をきっかけに自ら社会にアクションを起こせる人になってほしいと思っています。まずは一歩踏み出しませんか。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOについて「知る」「考える」「動く」初歩的な知識を身に付けることができる。 ・グループで対話（小グループ、全体）する力を身に付け、社会課題について考える力をつける事ができる。 ・自ら身近な社会課題について調べ、解決に向けての計画を立て、アクションを起こす。一連のサイクルをみにつけることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）	
	2	対話とグランドルール	
	3	知る・NPO活動と社会での役割	
	4	知る・日本のNPO史とNPO法	
	5	考える1・日本/沖縄の社会課題を考える	
	6	事例1 学生NPO	
	7	事例2 子育てと子どものおもちゃ	
8	事例3 環境NPO		
9	事例4 社会でチャレンジ		
10	知る・社会を変える仕組みをつくる		
11	考える2・APブラッシュアップワーク		
12	NPOの資金源/ボランティア/寄付		
13	事例5 福祉NPO		
14	パートナー/企業CSR/行政協働		
15	それぞれのone action（まとめ、ふりかえり）		
16	最終講義		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは使用しません。毎回プリントします。</p> <p>加藤哲夫著「一夜でわかる！NPOのつくり方」（主婦の友社 2004年） デービッド・ボーンステイン著「世界を変える人たち」（ダイヤモンド社 2007年） 駒崎弘樹著「社会を変える」お金の使い方」（英治出版 2010年）</p>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表のテーマやNPOについては変更する場合がある。 ・授業への参加人数や状況によっては（事例4～10）については、授業履修者にコーディネートしてもらう。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポート（テーマ：One Action） ・毎回授業終了時に簡単なミニレポートを提出。（ふりかえり、気づき、感想） ・講義の出席70%以上 ・授業参加（出席回数や授業、議論への参加度など） 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」「福祉」「まちづくり」など、各分野の専門性を深め社会課題がなんであるかを分析する。 ・NPOという組織が継続して社会課題を解決するための組織として存在するためのマネジメントについて学ぶ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい 教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨN 2 学力と教育（1）—「学力低下」問題① 3 学力と教育（2）—「学力低下」問題② 4 発達と教育（1）—野生児の記録① 5 発達と教育（2）—野生児の記録② 6 特色ある教育の思想と実践（1）—シュタイナー教育① 7 特色ある教育の思想と実践（2）—シュタイナー教育② 8 ジェンダーと教育（1） 9 ジェンダーと教育（2） 10 生命と教育（1）—優生学と教育① 11 生命と教育（2）—優生学と教育② 12 人権と教育（1）—差別と教育① 13 人権と教育（2）—差別と教育② 14 平和と教育（1）—沖縄戦と教育① 15 平和と教育（2）—沖縄戦と教育② 16 定期試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅱ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい 教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨN 2 学力と教育（1）—「学力低下」問題① 3 学力と教育（2）—「学力低下」問題② 4 発達と教育（1）—野生児の記録① 5 発達と教育（2）—野生児の記録② 6 特色ある教育の思想と実践（1）—シュタイナー教育① 7 特色ある教育の思想と実践（2）—シュタイナー教育② 8 ジェンダーと教育（1） 9 ジェンダーと教育（2） 10 生命と教育（1）—優生学と教育① 11 生命と教育（2）—優生学と教育② 12 人権と教育（1）—差別と教育① 13 人権と教育（2）—差別と教育② 14 平和と教育（1）—沖縄戦と教育① 15 平和と教育（2）—沖縄戦と教育② 16 定期試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅱ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい 教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨン 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見① 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見② 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況① 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況② 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題 7 性と教育（1）—性教育の現状 8 性と教育（2）—性教育の歴史 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について① 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について② 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える① 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える② 15 いのちの授業について 16 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい 教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨン 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見① 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見② 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況① 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況② 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題 7 性と教育（1）—性教育の現状 8 性と教育（2）—性教育の歴史 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について① 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について② 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える① 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える② 15 いのちの授業について 16 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	協働社会論	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志 真孝	1年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>少子高齢化、高度情報化、国際化、格差社会の進行等、社会変化が著しい中、個人のライフスタイルが多様化・複雑化し、今後我が国は、社会を構成する主体（市民・企業・行政等）が支え合っていく協働のまちづくりを推進していくことが強く求められています。本授業では、主としてNPOと行政との協働のあり方や事例を通して、協働のまちづくりを考える機会とする。</p>	<p>まちづくり計画の策定手法や国内外の先進的なまちづくり事例の紹介等、実務的な話をするので、実践に生かしてほしい。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>1. 協働のまちづくりの概念や事例を把握して、地域のまちづくり活動への参加意識を高める。 2. 身近な地域づくり団体である自治会・PTA等の活動に関心を示し、調査の実施及び課題を整理し、解決策を提案できる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「協働のまちづくりとは何か」～市民・企業・行政セクターの関係性～	参考文献②第1～4章
	2	「NPOとは何か」	参考文献①第1～5章
	3	「NPO法人とは何か」～法人化の手続き及びメリット等～	参考文献①第6章
	4	「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」	参考文献①第1～6章
	5	「まちづくりの考程・情報生産技術(1)」	参考文献③第1～5章
	6	「まちづくりの考程・情報生産技術(2)」	同上
	7	「オーストラリアの事例紹介(1)」	資料を作成し配布します。
	8	「オーストラリアの事例紹介(2)」	同上
	9	「指定管理者制度の概要」	同上
	10	「指定管理者制度の事例紹介」～主に那覇市の事例を通して～	同上
	11	「協働のまちづくりの事例紹介(1)」～那覇市生涯学習推進計画の策定過程～	参考文献④第1～5章
	12	「協働のまちづくりの事例紹介(2)」～那覇市生涯学習推進計画の策定過程～	同上
	13	「協働のまちづくりの事例紹介(3)」～那覇市公民館の事例～	資料を作成し配布します。
	14	「協働のまちづくりの事例紹介(4)」～那覇市公民館の事例～	同上
15	「協働のまちづくりの事例紹介(5)」～仙台市民センターの事例～	同上	
16	まとめ～振り返り～	各自スピーチの準備を行う。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>・テキストは指定しない。 ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として、以下を推薦する。①「NPO基礎講座」～市民社会の創造のために～山岡義典（編著）ぎょうせい②「協働のデザイン」～パートナーシップを拓く仕組みづくり、人づくり～世古一穂（著）学芸出版社③「にいがたまちづくり事典マチダス」（財）ニューにいがた振興機構（編）博進堂④「那覇市生涯学習推進計画」2013年度～2017年度那覇市教育委員会（編集・発行）</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>履修の心構えとして、以下注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に連絡（欠席届の提出）すること。 ・まちづくりやボランティア・社会貢献活動に関する知識の習得及び体験していると理解が早い。但し、予備知識や体験のない学生にも本講義が理解できるよう配慮する。</p>

学びの実践	評価
	<p>○レポート：90点 到達目標1. 2. を評価 ○まとめ～振り返り～：10点 各自のスピーチで評価</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりに関する理論と事例の学びを継続することで、まちづくり活動へ関わる能力を高め、実践につなげてほしい。 ・ボランティア活動や社会貢献活動に積極的に関わることで、就職活動の選択肢が増えると考え。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 論理的に自分の主張を伝える — そのような能力は一般的なビジネスパーソンにとっても、これから就職の面接に臨む皆さんにとっても大変重要なものでしょう。経済学は、様々な社会経済問題について、論理的思考を突き詰めて現象を説明・予測しようとする学問です。将来、みなさんがビジネスの世界で活躍するのに役立つ知識として経済学のツールを習得してもらう事が目的です。	メッセージ 経済学的な考え方を身につけると、「社会を見る目」が変わります。この講義では、数学の知識も若干必要です。しかし、苦手な人も怖がらずに、この講義にチャレンジしてください。ぜひ、一緒に学びましょう。
	到達目標 新聞やニュースで企業や政府の活動について知ったときに、経済学のツールを使うとどのように理解できるのかを考える力を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、経済学の10大原理	
	2	経済学の10大原理	予習：テキスト第3章
	3	需要と供給	予習：テキスト第3章
	4	需要と供給	予習：テキスト第3章
	5	需要と供給	復習：講義資料の見直し
	6	弾力性とその応用	予習：テキスト第5章
	7	弾力性とその応用	復習：講義資料の見直し
	8	今までの復習と質問受付	
9	政府の政策	予習：テキスト第6章	
10	政府の政策	復習：講義資料の見直し	
11	市場の効率性	予習：テキスト第7, 8章	
12	市場の効率性	復習：講義資料の見直し	
13	生産の費用	予習：テキスト第13章	
14	生産の費用	復習：講義資料の見直し	
15	まとめ		
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学1 ミクロ編』，東洋経済新報社		
	学びの手立て 【受講時の態度について】 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 授業で学んだ概念や理論を使って、最近の経済ニュースについて考えてください。		
	評価 30%：授業課題レポート（第8回目もしくは9回目の講義内で、レポート課題を出題する。） 70%：期末テスト		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学Ⅱ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学の入門編として、特にマクロ経済学のエッセンスを学習するとともに、経済学的視点から経済現象や社会問題を読み解く力、論理的に考える力を修得することを目標とします。	メッセージ 各回経済時事、ニュース等を取り上げながら講義をします。経済学や経済政策について広い関心を持つ経済学の初学者、経済学部以外の学生に履修を勧めます。
	到達目標 ①経済学の基本的な考え方、アプローチについて理解することが出来る。 ②経済政策（財政政策・金融政策）を支える基本的な考え方について理解する。 ③グローバル化の下で現代国家が抱える経済的な課題について把握し、各国の政策協調の現在を知る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	経済学とは何か？ーマクロ経済学のアプローチ	経済記事や参考文献①を参照
	3	マクロ経済学と経済指標	参考文献①を参照
	4	GDPと三面等価の原則	参考文献①、②を参照
	5	消費と貯蓄の考え方	参考文献①、②を参照
	6	企業の投資	参考文献①、②を参照
	7	政府の支出	参考文献①、②を参照
	8	前半のまとめ	講義前半の振り返り
9	総需要の経済学ーケインズ経済学(1)	参考文献②、③を参照	
10	総需要の経済学ーケインズ経済学(2)	参考文献②、③を参照	
11	金融市場と金融政策	経済記事、参考文献③を参照	
12	政府による所得分配(1)	参考文献②を参照	
13	政府による所得分配(2)	参考文献②を参照	
14	日本における財政政策と金融政策	財政・金融政策関係資料を調べる	
15	講義のまとめ	講義後半の振り返り	
16	期末テスト	講義全体の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しませんが、マクロ経済学の入門書等を参照し、基本的な考え方を押さえておくことを勧めます。 講義では適宜プリントを配布します。 【参考文献】 ①家森信善(2015)『基礎からわかるマクロ経済学【第4版】』中央経済社 ②柴田章久他著(2013)『マクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア ③飯田泰之他著(2013)『コンパクトマクロ経済学』新世社		
	学びの手立て ○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。 毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 国内外の経済時事に広い関心を払うことを勧めます。 経済学の基本的な考え方を社会生活の中で実践的に使うことを想定して学ぶ姿勢を求めます。		
	評価 ○平常点(15%) 小テスト(25%) 期末テスト(60%) ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません(公欠を除く)。 ○上記の評価基準により到達目標の①、②、③を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容はマクロ経済学のエッセンスと現代の経済政策全般に関する内容を扱います。より深く学びたい人は、下記の関連科目の履修を勧めます。 【関連科目・次のステージ】 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	マスコミ論入門	
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	
	4	各紙の論調の比較検討	
	5	家族問題入門	
	6	子どもの社会問題 ビデオ視聴	
	7	ジェンダーの問題	
	8	教育問題	
	9	ゆとり教育と詰め込み教育、沖縄の学力問題	
	10	社会福祉入門	
	11	知らないと損する社会保障	
	12	ビデオ視聴とその解説	
	13	安全保障論	
	14	戦争の歴史	
15	各種アプローチの紹介		
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』（末重重人、球陽出版、2007年：500円） 伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたい。

学びの実践	評価 期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	マスコミ論入門	
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	
	4	各紙の論調の比較検討	
	5	家族問題入門	
	6	子どもの社会問題 ビデオ視聴	
	7	ジェンダーの問題	
	8	教育問題	
	9	ゆとり教育と詰め込み教育、沖縄の学力問題	
	10	社会福祉入門	
	11	知らないと損する社会保障	
	12	ビデオ視聴とその解説	
	13	安全保障論	
	14	戦争の歴史	
	15	各種アプローチの紹介	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』（末重重人、球陽出版、2007年：500円） 伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年
-------	---

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたい。
-------	---

学びの実践	評価 期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近やっと三万人を下回り始めた自殺者問題をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。また共同体の持つ仲間への親しみの情と他人への冷遇の「二重倫理の問題」(マックス・ウェーバー)を、沖縄の社会事業史を手掛かりに学ぶ。	メッセージ 社会問題を社会学理論で合折するようにしたい。
	到達目標 社会問題の背後に社会学理論を応用できることがあることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスの説明
	2	社会学の始まりーコントと仏革命
	3	自殺論とデュルケム社会学
	4	デュルケムの自殺理論と自殺統計
	5	自殺関連のビデオ視聴とその解説
	6	20世紀を席卷したマルクス主義社会学
	7	20世紀と社会主義革命
	8	ビデオ視聴とその解説
学びの実践	9	宗教に焦点を当てたウェーバー社会学
	10	宗教が判らないと21世紀は読めない
	11	キリスト教とはどのような宗教か
	12	その他の世界宗教をウェーバーはどう見たか
	13	沖縄社会を社会事業史で解く
	14	昔の沖縄に福祉が存在したか
	15	沖縄社会論 (沖縄はかつて優しかったか)
	16	試験
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』(末吉重人、2010年：500円) 前期と同じテキスト。 『社会学講義』富永健一、中公新書、1995年度初版、900円	
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて授業を行いたい。	
学びの実践	評価 前後期とも期末テスト(80点)と出席点(20点)で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近やっと三万人を下回り始めた自殺者問題をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。また共同体の持つ仲間への親しみの情と他人への冷遇の「二重倫理の問題」(マックス・ウェーバー)を、沖縄の社会事業史を手掛かりに学ぶ。	メッセージ 社会問題を社会学理論で合折するようにしたい。
	到達目標 社会問題の背後に社会学理論を応用できることがあることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	社会学の始まりーコントと仏革命	
	3	自殺論とデュルケム社会学	
	4	デュルケムの自殺理論と自殺統計	
	5	自殺関連のビデオ視聴とその解説	
	6	20世紀を席卷したマルクス主義社会学	
	7	20世紀と社会主義革命	
	8	ビデオ視聴とその解説	
	9	宗教に焦点を当てたウェーバー社会学	
	10	宗教が判らないと21世紀は読めない	
	11	キリスト教とはどのような宗教か	
	12	その他の世界宗教をウェーバーはどう見たか	
	13	沖縄社会を社会事業史で解く	
	14	昔の沖縄に福祉が存在したか	
	15	沖縄社会論 (沖縄はかつて優しかったか)	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』(末吉重人、2010年：500円) 前期と同じテキスト。 『社会学講義』富永健一、中公新書、1995年度初版、900円		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて授業を行いたい。		
	評価 前後期とも期末テスト(80点)と出席点(20点)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、(1)集落景観調査（地形・地質・水文などの自然環境調査と民家形式調査）及び(2)社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係）を、宜野湾市と本部町にある2集落を選定して調査を実施する。</p>	<p>野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成など、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の皆さんの参加を期待します。</p>
	到達目標	
	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの種類と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討①	同上
	5	地域調査における文献の検討②	同上
	6	地域調査におけるデータの取得	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①－縮尺・等高線・地図記号－	同上
	9	地形図の利用②－読図－	同上
	10	地形図の利用③－読図の比較－	同上
	11	国土基本図の利用方法	同上
	12	地籍図・住宅地図の利用方法	同上
	13	空中写真の利用方法	同上
	14	地図を用いた地域調査の企画	同上
	15	地図を用いた地域調査の設計	同上
	16	地域調査の企画・設計①（調査の目的と方法、調査地域の決定）	同上
	17	調査地域の企画・設計②（調査の種類と方法）	同上
	18	データの取得方法と仮説の設定①	同上
	19	データの取得方法と仮説の設定②	同上
	20	地域調査に向けての文献の検討①	同上
	21	地域調査に向けての文献の検討②	同上
	22	地域調査の実施①	同上
	23	地域調査の実施②	同上
	24	地域調査の実施③	同上
	25	地域調査の実施④	同上
	26	地域調査の実施⑤	同上
	27	地域調査の結果集計・分析①	同上
	28	地域調査の結果集計・分析②	同上
	29	地域調査の結果集計・分析③	同上
30	報告書のまとめと製本①	同上	
31	報告書のまとめと製本②	同上	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有齒正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田俊弘編著『歴史地理調査ハンドブック』古今書院
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合は、週末や夏休みに実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にして下さい。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

※ポリシーとの関連性 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め、考え、判断し、主体的に行動することができる人物を培う。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅰ	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	3年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館機能における、「調査・研究」「展示」「教育」を体験的に学び学芸員としての知識や技術の習得を目指す。	メッセージ 企画展づくりをとおして博物館の実務を楽しく学びます。
	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得できる。博物館実習に必要な基礎的な技術が習得できる。	

学びの準備	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得できる。博物館実習に必要な基礎的な技術が習得できる。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（講義の目的、進め方について） 2～3. 資料調査（本年度の企画展示内容は、「沖縄国際大学の歴史」を予定する） 4～7. 企画会議 8～9. 展示解説シートの作成（イラストレーターの方法・等） 10～11. 資料収集 12～13. 資料作成 14～15. 中間報告 16. 後期ガイダンス 17～26. 展示会準備・展示資料製作・搬入 12月頃（予定）に2週間程度展示会開催 12月頃（予定）に1回程度企画展に関する関連イベントを開催 28～29. 片付け、お礼状送付、報告書作成 31. レポート提出 <p>※学外ゼミで、他大学との合同ゼミおよび博物館見学を計画</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しない、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を探し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくりを行うため、自ら調査、資料収集、展示物製作を行う。 ・博物館資格取得科目である「博物館学概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、博物館学芸員資格取得を目指す学生以外の受講生にも本講義を理解できるよう配慮する。
	<p>評価</p> <p>課題（50%） 平常点（50%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>企画展づくりをとおして、調べるだけでなく調べたことを表現する能力を身につけ、仲間と作業を共同で行う事の楽しさを理解する。 上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を位置づける。博物館実習前の受講を推奨する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	水 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集の仕方を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出てからも利用できるスキルになります。</p>	<p>中学生レベルの数学で問題ないですがノートや電卓などを持参してください。分からなくなった場合は、授業中・授業後などに質問しにきてください。</p>
	到達目標	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査や実験の方法を学ぶ 2. それらのデータの分析方法を学ぶ 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	統計・調査入門	なし
	2	統計の考え方	前回の復習
	3	文献調査	文献サーベイ
	4	文献調査	文献サーベイ
	5	仮説および質問紙作成	質問紙作成
	6	中間レポートの発表	
	7	調査および集計	データの分析
	8	分布	データの分析
	9	クロス集計表	データの分析
	10	相関・回帰分析	データの分析
	11	回帰分析	データの分析
	12	その他の分析手法	データの分析
	13	発表	
	14	最終レポート作成方法	レポート作成
	15	最終レポート作成の手伝い	レポート作成
	16	まとめ	
	17	R入門	復習
	18	Rプログラミング	分析
	19	Rプログラミング	分析
	20	相関その他	データの分析
	21	検定	データの分析
	22	検定	データの分析
	23	重回帰分析	データの分析
	24	重回帰分析	データの分析
	25	ロジスティック回帰	データの分析
	26	主成分・因子分析(1)	データの分析
	27	主成分・因子分析(2)	データの分析
	28	共分散構造分析	データの分析
	29	共分散構造分析	データの分析
30	クラスタリング	作成	
31	最終発表		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜資料は配布する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	<p>評価</p> <p>最終レポート・・・30点 到達目標をチェック 平常点（各回の課題）・・・70点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>統計学1と2が関連する</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	4年		

学びの準備	ねらい 本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集の仕方を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出てからも利用できるスキルになります。	メッセージ 中学生レベルの数学で問題ないですがノートや電卓などを持参してください。分からなくなった場合は、授業中・授業後などに質問しにきてください。
	到達目標 1. 調査や実験の方法を修得する 2. それらのデータの分析方法を修得する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	統計・調査入門	なし
	2	統計の考え方	前回の復習
	3	質問紙の作り方	前回の復習
	4	文献調査	文献サーベイ
	5	文献調査	文献サーベイ
	6	仮説および質問紙作成	質問作成
	7	中間レポートの発表	
	8	調査および集計	データの分析
	9	分布	データの分析
	10	クロス集計表	データの分析
	11	相関・回帰分析	データの分析
	12	回帰分析	データの分析
	13	その他の分析手法	データの分析
	14	発表	レポート作成
	15	最終レポート作成	
	16	まとめ	
	17	R入門	復習
	18	Rプログラミング	プログラミング復習
	19	Rプログラミング	プログラミング復習
	20	相関その他	実データの分析
	21	検定	データの分析
	22	検定	データの分析
	23	重回帰分析	データの分析
	24	ロジスティック回帰	データの分析
	25	中間発表	データの分析
	26	主成分・因子分析（1）	データの分析
	27	主成分・因子分析（2）	データの分析
	28	共分散構造分析	データの分析
	29	共分散構造分析	データの分析
30	クラスタリング	レポート作成	
31	最終発表		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜資料は配布する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 演習が中心なため、出席して発言することが重要。</p>
	<p>評価 最終レポート・・・30点 到達目標をチェック 平常点（各回の課題）・・・70点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	4年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、(1)集落景観調査（地形・地質・水文などの自然環境調査と民家形式調査）及び(2)社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係）を、宜野湾市と本部町にある2集落を選定して調査を実施する。	野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成などで、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の皆さんの参加を期待します。
到達目標	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの種類と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討①	同上
	5	地域調査における文献の検討②	同上
	6	地域調査におけるデータの取得	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①－縮尺・等高線・地図記号－	同上
	9	地形図の利用②－読図－	同上
	10	地形図の利用③－読図の比較－	同上
	11	国土基本図の利用方法	同上
	12	地籍図・住宅地図の利用方法	同上
	13	空中写真の利用方法	同上
	14	地図を用いた地域調査の企画	同上
	15	地図を用いた地域調査の設計	同上
	16	地域調査の企画・設計①（調査の目的と方法、調査地域の決定）	同上
	17	調査地域の企画・設計②（調査の種類と方法）	同上
	18	データの取得方法と仮説の設定①	同上
	19	データの取得方法と仮説の設定②	同上
	20	地域調査に向けての文献の検討①	同上
	21	地域調査に向けての文献の検討②	同上
	22	地域調査の実施①	同上
	23	地域調査の実施②	同上
	24	地域調査の実施③	同上
	25	地域調査の実施④	同上
	26	地域調査の実施⑤	同上
	27	地域調査の結果集計・分析①	同上
	28	地域調査の結果集計・分析②	同上
	29	地域調査の結果集計・分析③	同上
30	報告書のまとめと製本①	同上	
31	報告書のまとめと製本②	同上	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有蘭正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田敏弘編著『歴史地理調査ハンドブック』古今書院
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合に、週末や夏休みに実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にしてください。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	月5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	4年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館運営を体験的に学び、学芸員としての知識や技術の習得だけでなく、社会問題解決のための館運営について考える力を身に付けることを目指す。	メッセージ 企画展づくりをとおして博物館の実務を楽しく学びます。
	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得するとともに、博物館の役割について深く考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	資料調査（1）	事前の下調べを怠らないこと
	3	資料調査（2）	事前の下調べを怠らないこと
	4	企画会議（1）	事前に企画書を準備すること
	5	企画会議（2）	事前に企画書を準備すること
	6	企画会議（3）	事前に企画書を準備すること
	7	企画会議（4）	事前に企画書を準備すること
	8	展示解説シートの作成（1）	受講後課題に取り組むこと
	9	展示解説シートの作成（2）	受講後課題に取り組むこと
	10	資料収集（1）	自ら調べ収集すること
	11	資料収集（2）	自ら調べ収集すること
	12	資料作成（1）	自ら調べ収集すること
	13	資料作成（2）	自ら調べ収集すること
	14	中間報告（1）	事前に報告書を作成すること
	15	中間報告（2）	事前に報告書を作成すること
	16	後期ガイダンス	夏休みを有効に使うこと
	17	展示物作成	各自製作等にとりくむこと
	18	展示物作成	各自製作等にとりくむこと
	19	展示物作成	各自製作等にとりくむこと
	20	展示準備	作業は協力し合うこと
	21	展示準備	作業は協力し合うこと
	22	展示準備	作業は協力し合うこと
	23	展示品搬入	作業は協力し合うこと
	24	展示品搬入	作業は協力し合うこと
	25	展示品搬入	作業は協力し合うこと
	26	展示会開催	作業は協力し合うこと
	27	展示関連イベント開催	準備は怠らないこと
	28	片付け・お礼状の送付	作業は協力し合うこと
29	報告書作成	作業は協力し合うこと	
30	※学外ゼミで他大学との合同ゼミと博物館見学を計画	作業は協力し合うこと	
31	まとめ・レポート	課題提出	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しない、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を探し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくりを行うため、自ら調査、資料収集、展示物製作を行う。 ・博物館資格取得科目である「博物館学概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、博物館学芸員資格取得を目指す学生以外の受講生にも本講義を理解できるよう配慮する。
	<p>評価</p> <p>課題（50%） 平常点（50%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>企画展づくりをとおして、調べるだけでなく、調べたことを表現する能力を身につけ、仲間と作業を共同で行うことの楽しさを理解する。 関連科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を位置づける。</p>

※ポリシーとの関連性 福祉の考え方、歴史の変遷、最新福祉制度の基本的構造を学びます。社会福祉専攻者だけでなく、一般学生も福祉の概要が学べます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅰ	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	竹藤 登	1年	takefuji-n@ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における社会福祉の意義、歴史や理念の変遷、社会福祉諸制度の概要など幅広く福祉について学びます。	メッセージ ①社会福祉全般の知識が得られます。②現代社会の福祉最新情報、現場の動きが事例を通して学ぶことができる。③現代社会の福祉課題が認識できる。
	到達目標 社会福祉の全体像が理解できるようになる。各福祉制度の構造、具体的なサービス内容が理解出来る。現代社会の福祉の課題が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会福祉とは、社会福祉の視点 医療・保健・福祉の違い	社会福祉の視点を理解
	2	社会福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーションの理念	社会福祉の歴史の変遷を理解
	3	社会福祉基礎構造改革 措置制度から契約制度へ 利用者主体	福祉サービスが利用者主体へ
	4	ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割	福祉専門職の役割の理解
	5	障がいの理解 障がい者の心理的理解	障がいの理解
	6	自立とは 自立支援とは 自己決定の支援	自立の概念の理解
	7	障害者総合支援法の概要	障害者総合支援法の仕組みの理解
	8	介護保険法の概要	介護保険法の仕組みの理解
9	生活保護法の概要	生活保護法の仕組みを理解	
10	児童・家庭福祉法の概要	児童・家庭福祉の仕組みを理解	
11	人権と権利 権利擁護とは(虐待防止法)	人権とは権利とは 権利擁護を理解	
12	権利擁護システム(苦情解決システム オンブズマンシステム)	いろいろな権利擁護システムの理解	
13	成年後見制度の概要 法定後見 任意後見	成年後見制度の理解	
14	成年後見活動の実際 身上監護活動の実際	成年後見活動の理解	
15	成年後見活動事例の実際	成年後見活動の実際	
16	まとめとテスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回レジュメを配布		
	学びの手立て レジュメに講義の概要をまとめてあるが、講義内容をよく聞いて、その場で理解するように心がける。聞き逃すと授業についていけない場合もあるので、よく聴き、また他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。専門用語などが分からないときは、その場で質問するか、質問用紙で質問する。		
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価 ②期末テスト評価 ③出席率評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	竹藤 登	1年	takefuji-n@ryukyuu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ソーシャルワークの技術の基本が学べる。ソーシャルワーカーとしての倫理性を理解する。	メッセージ 対人援助の基本を学び、具体的な支援方法をソーシャルワークの技術から学ぶ
	到達目標 ソーシャルワークの基本原則、価値と倫理 具体的なソーシャルワーク技法を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	自己覚知① 自分の特性を理解する。	ライフストーリーを完成する
	2	自己覚知② 自分の価値観を分析する。	色々な場面で自分の価値観を知る
	3	コミュニケーション技法を学ぶ 言語・非言語コミュニケーション	意識したコミュニケーション
	4	具体的な面接技法を学ぶ	面接場面を経験する
	5	他者理解・福祉利用者の困難性を環境因子から考える。	他人を理解すること
	6	価値と倫理 倫理綱領を考える。	専門性を理解する
	7	社会福祉援助技術の基本原則と種類	ソーシャルワークの種類を学ぶ
	8	ケースワークの実際	ケースワークの基本原則
9	グループワークの実際	グループワークの基本原則	
10	コミュニティワークの実際	コミュニティワークの基本原則	
11	ケアマネジメント手法の実際	ケアマネジメントの基本原則	
12	ケアマネジメント演習 アセスメントの実際	ケアマネジメントの手法	
13	社会福祉経営管理の実際	社会福祉経営の具体的な方法	
14	リスクマネジメントの実際	リスクマネジメントの基本原則	
15	スーパービジョンの実際	スーパービジョンの基本原則	
16	まとめとテスト		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回レジュメを配布		
	学びの手立て レジュメに講義の概要をまとめてあるが、講義内容をよく聞いて、その場で理解するように心がける。 聞き逃すと授業についていけない場合もあるので、よく聴き、また他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。 専門用語などが分からないときは、その場で質問するか、質問用紙で質問する。		
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価 ②期末テスト評価 ③出席率評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	1年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 生涯学習及び社会教育の意義と本質、生涯学習社会を支える各公共施設の専門職員に必要な考え方や職務内容を理解する。そのため、教育分野全体の法体系、行財政などを取り上げ、家庭・学校・社会教育の関連性を把握する。さらに、生涯学習社会を支える各公共施設の地域社会への関わりと役割、MLAなどの連携・協力、そして施設を担う専門的職員の機能・役割について解説する。	メッセージ 公共図書館を取り巻く社会変化を把握する。
	到達目標 障害学習社会への変化の中で、これからの公共図書館と図書館司書はどうすべきなのかという考え方と行動の枠組みをとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生涯学習の概念	第1～4週：「生涯学習社会とは」
	2	生涯学習・教育論の展開	についての関連分連での事前調査
	3	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 1	及び文献・講義内容をまとめる
	4	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 2	
	5	日本の社会教育	第5～9週：「法体系、自治体の取
	6	教育関連の法体系	り組み」についての関連文献での
	7	自治体の教育行財政	前調査及び文献・講義内容をまと
	8	社会教育の内容・方法・形態	める
9	生涯学習社会と教育施設の関連性		
10	社会教育施設1-1：公民館：管理・運営・職員	第10～15週：「公共施設の3本柱」	
11	社会教育施設2-1：博物館：管理・運営	についての関連文献での事前調査	
12	社会教育施設2-2：博物館：職員：職員（学芸員）	及び文献・講義内容をまとめる	
13	社会教育施設3-1：公共図書館：管理・運営	(特に図書館司書に重点を置く)	
14	社会教育施設3-2：公共図書館：職員（司書）		
15	教育関連施設の連携・協力		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリントを配布する。		
	学びの手立て 図書館司書資格の修得を目指す人は、1年次の「図書館概論」に続き、2年次で履修して図書館を取り巻く社会変化を大きく把握すること。		
	評価 平常点（出席状況10%）とレポート（または期末試験）90%による総合評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・施策・行政機関、また家庭教育・学校教育・社会教育との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等について理解する。	メッセージ 博物館を中心に、社会教育施設等の機能や職員の役割、施設の課題点について考え、実践例を交え生涯学習の意義について学びます。
	到達目標 生涯学習の基本的な考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 生涯学習の考え方に基づき、自ら学習を提供できるような企画が立案できる。	

学びの準備	到達目標 生涯学習の基本的な考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 生涯学習の考え方に基づき、自ら学習を提供できるような企画が立案できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築	関連資料を配布するので読むこと
	3	学習者と生涯学習	関連資料を配布するので読むこと
	4	生涯学習の意義と特性	関連資料を配布するので読むこと
	5	学校教育と家庭教育	関連資料を配布するので読むこと
	6	社会教育	関連資料を配布するので読むこと
	7	生涯学習の形態	関連資料を配布するので読むこと
	8	教育行政と生涯学習行政のあゆみ	関連資料を配布するので読むこと
	9	人文系博物館における生涯学習の実践	課題発表
	10	自然系博物館における生涯学習の実践	課題発表
	11	図書館における生涯学習の実践	課題発表
	12	公民館等における生涯学習の実践	課題発表
	13	学習支援の方法と指導者	関連資料を配布するので読むこと
	14	住民参加の学び—ボランティアとNPO—	関連資料を配布するので読むこと
	15	※授業のうち1回各自生涯学習施設における生涯学習事業に参加	課題提出
16	テスト	復習を怠らないようにすること	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。 基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。 参考文献①鈴木眞理ほか(編著)2011年『生涯学習の基礎[新版]』学文社。②伊藤俊夫2010年『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解は早い。もちろん、これらの科目を受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。
-------	--

学びの実践	評価 課題・テスト(80%)。平常点(20%) ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員の視点から広く情報を収集し、多くの学習会等生涯学習事業に積極的に参加すること。関連・上位科目として「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	女性学	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親川 裕子	1年	yuko-oyakawa@outlook.jp	

学びの準備	ねらい ジェンダーの視点をとおして社会の枠組みや構造、法律などを知る。ジェンダーに関わる多様な諸問題を認識し、課題解決に向けた批判的思考を拓げる。	メッセージ ジェンダーは「社会的、文化的性差」として、身体的な性差とは異なる概念と認識されています。「女／男らしさ」や「女／男であれば〜であるべき」というジェンダー・バイアス（偏見）な考え方で取捨されてきたことそれがいままぜ捉え直されているのかを考えてみたいと思います。
	到達目標 本講義では、まず世界や日本におけるジェンダー研究の成り立ちを踏まえ、ジェンダー的視点や思考について理解し、批判的視野を広げる。（特に専門的なジェンダー理論の習得を目指すものではないが、希望する学生には個別に対応する）具体的には伝統や慣習に内在するジェンダー、就職、結婚や離婚、出産、育児、介護といったライフステージにおけるジェンダー的課題について、必ずしもジェンダー・バイアスから自由では無い事象とは何か知見を広げることを試みる。さらに、性暴力・性の多様性・メディア・表象など、社会のあらゆる場面で起きているジェンダーに派生する社会問題について身近な問題として捉え、どのような問題解決の糸口が探れるのかを分析・考察していく。後半では沖縄に内在する様々な諸問題をジェンダー的視点から考える。	

学びの準備	到達目標 本講義では、まず世界や日本におけるジェンダー研究の成り立ちを踏まえ、ジェンダー的視点や思考について理解し、批判的視野を広げる。（特に専門的なジェンダー理論の習得を目指すものではないが、希望する学生には個別に対応する）具体的には伝統や慣習に内在するジェンダー、就職、結婚や離婚、出産、育児、介護といったライフステージにおけるジェンダー的課題について、必ずしもジェンダー・バイアスから自由では無い事象とは何か知見を広げることを試みる。さらに、性暴力・性の多様性・メディア・表象など、社会のあらゆる場面で起きているジェンダーに派生する社会問題について身近な問題として捉え、どのような問題解決の糸口が探れるのかを分析・考察していく。後半では沖縄に内在する様々な諸問題をジェンダー的視点から考える。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ジェンダー概論（ウーマン・リブ、フェミニズムから、女性学、ジェンダー・スタディーズへ）	
	2	世界の潮流	女性差別撤廃条約の概要を理解
	3	日本におけるジェンダー（論／学／スタディーズ）	新聞からジェンダー関連記事の収集
	4	伝統や慣習に見るジェンダー	上記関連記事についての調査
	5	教育カリキュラムにおけるジェンダー ～隠れたカリキュラム～	上記調査結果について感想
	6	職業、労働に見るジェンダー	雑誌からジェンダー関連記事の収集
	7	育児、介護におけるジェンダー	上記関連記事についての調査
	8	メディア・リテラシー ①	中間レポート作成用の課題設定
	9	メディア・リテラシー ②	中間レポート作成用資料収集
	10	親密圏におけるジェンダー ～DV防止法～	ジェンダー関連文献選定
	11	「女性の貧困」について	中間レポート用調査、分析
	12	ジェンダーの視点から考える人権	中間レポート作成提出
	13	ジェンダーの視点から読む文学 ①	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』
	14	ジェンダーの視点から読む文学 ②	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』
15	沖縄・ジェンダー マイノリティ女性、複合差別を考える	期末試験用課題設定資料収集	
16	期末試験：筆記 レポート形式	期末試験用課題設定資料収集	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は無く、都度、講義で資料を配布します。参考までに以下の書籍を挙げておきます。 『女性学・ジェンダー研究の創成と展開』（館かおる著、世織書房、2014年、本体2,800円＋税） 『沖縄ジェンダー学2 法・社会・身体の制度』（喜納育江、矢野恵美 編著、大月書店、2015年、本体3,400円＋税）
-------	---

学びの実践	学びの手立て ○履修の心構え 遅刻、私語、居眠りには厳しく減点します。 新聞の購読（地元紙は特に）必須。 ○学びを深めるために 講義毎にレスポンスシートを書いて提出していただきます。
-------	--

学びの実践	評価 レスポンスシートのコメントを講義への参加度とみなし30%、 レポート20%、期末筆記試験（レポート形式）50%のバランスで評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目：ジェンダーをより専門的に理解したい場合は社会学、国際政治学の知見も有効。また、沖縄近現代史など沖縄の歴史の講義は、弱者や「他者」、「人権」といった概念について理解を深めることができるでしょう。○次のステージ：批判的視点をより広げるために日頃から新聞や雑誌（文芸誌など）を読む習慣をつけ、自分の言葉で考えをまとめる作業を続けてほしいと思います。
-------	--

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1 年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学 I」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実に生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。</p>	<p>「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。</p>
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。現代政治学の成果を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション - 「居酒屋政治談義」を超えて -	
2	政治		
3	政治学		
4	政治権力		
5	政治体制		
6	政治過程		
7	選挙 (1)		
8	選挙 (2)		
9	政党 (1)		
10	政党 (2)		
11	官僚制		
12	利益集団・市民運動		
13	マスメディア		
14	地方自治		
15	講義のまとめ		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>使用しない。プリントを適宜配布。 開講時に指定。</p>		
学びの手立て	<p>私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。</p>		
評価	<p>定期試験の結果とリアクションペーパーで判断。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「政治学 II」をあわせて履修することが望ましい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」では、社会科学における「実験」に相当する「比較」という方法を用いて世界トップレベルの研究成果を提示してきた、フランスの政治学者マテイ・ドガンの学説を手がかりに講義を行う。	「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。比較的観点から現代政治を鳥瞰できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション	
	2	社会科学と政治学	
	3	社会科学に「パラダイム」は存在するかー社会科学の発展法則	
	4	比較という方法	
	5	社会諸科学のハイブリッド化	
	6	ポスト産業社会における階級	
	7	ポスト産業社会における宗教	
8	ポスト産業社会における「地位の非一貫性」		
9	西欧民主政諸国における政治への信頼の腐食		
10	人間不信・制度不信・政党不信・政治家不信		
11	ナショナリズムによる不信から相互の信頼へ		
12	イギリスとイタリアーデモクラシーは生き残れるか		
13	政治体制の正統性と脱正統化		
14	ウェーバーの類型学の陳腐化		
15	講義のまとめ		
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など マテイ・ドガン、櫻井陽二・芝田秀幹訳『比較政治社会学の新次元』（芦書房、2011年）。 参考書は開講時に指定。		
	学びの手立て 私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。		
	評価 定期試験の結果、リアクションペーパーで判断。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「政治学Ⅰ」をあわせて履修することが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学 I では、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。	メッセージ 新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。
	到達目標 地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地形 ①	資料地理の研究、プリントの復習
	2	地形 ②	資料地理の研究、プリントの復習
	3	気候 ①	資料地理の研究、プリントの復習
	4	気候 ②	資料地理の研究、プリントの復習
	5	植生と土壌、水資源について	資料地理の研究、プリントの復習
	6	自然災害と環境問題①	資料地理の研究、プリントの復習
	7	自然災害と環境問題②	資料地理の研究、プリントの復習
	8	世界の農業形態①	資料地理の研究、プリントの復習
	9	世界の農業形態②	資料地理の研究、プリントの復習
	10	世界の農業形態③	資料地理の研究、プリントの復習
	11	林業と水産業	資料地理の研究、プリントの復習
	12	エネルギーと資源	資料地理の研究、プリントの復習
	13	世界の工業地域①	資料地理の研究、プリントの復習
	14	世界の工業地域②	資料地理の研究、プリントの復習
	15	世界の工業地域③	資料地理の研究、プリントの復習
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,500円 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。		
	評価 小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学 II、沖縄の地理
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学には、自然環境と人間・社会環境を総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、地誌学的視点から世界の諸地域をみていく。</p>	<p>世界の地理的環境について、スライド・映像資料などを用いながら、わかりやすく講義します。</p>
到達目標	世界の諸地域における地理的環境を学び、それが人間生活に強く影響していることを理解する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地理学の成立と本質 2 地図の歴史 3 地図の利用方法 4 地域と景観①－韓国済州島－ 5 地域と景観②－韓国済州島－ 6 地域と景観③－ミクロネシア地域－ 7 地域と景観④－ミクロネシア地域－ 8 地域と景観⑤－台湾－ 9 地域と景観⑥－台湾－ 10 環境と生態①－乾燥地域の環境－ 11 環境と生態②－湿潤地域の環境－ 12 環境と生態③－熱帯地域の環境－ 13 環境と生態④－寒帯地域の環境－ 14 開発と環境変化①－東京におけるヒートアイランド現象－ 15 開発と環境変化②－都市と経済－ 16 期末試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で適宜紹介する。
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課題を出す場面が多くあり、時間内で提出すること。 ・地図帳を持参して講義に参加すること。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（60点） ・平常点：講義中の課題提出（40点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる）

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界における地理的環境を理解し、後期開講する地理学Ⅱに繋げる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。	メッセージ 新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。
	到達目標 地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生活空間の拡大と地図の発達	
	2	さまざまな地図	
	3	地形図の活用の仕方	
	4	地形図の活用の仕方	
	5	地理情報システムとリモートセンシング	
	6	村落と都市①	
	7	村落と都市②	
	8	消費と余暇行動	
	9	人口と食糧①	
	10	人口と食糧②	
	11	交通と通信	
	12	貿易と経済的な結びつき	
	13	国家と民族・文化	
	14	地域開発	
	15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,575円 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。		
	評価 小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学Ⅱ、沖縄の地理
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学には、自然環境と人文環境について総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、人文地理学による立地論の視点から、地域の諸相をみていく。	メッセージ 立地論から地域の特性をみていきます。また人口・産業・交通などの分布・変容などから地域形成のパターンを読み解きます。
	到達目標 立地論の視点を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	地理学と地図①	事前に配ったプリントを読むこと
	3	地理学と地図②	同上
	4	農業立地論①	同上
	5	農業立地論②	同上
	6	農業立地論③	同上
	7	工業立地論①	同上
	8	工業立地論②	同上
9	工業立地論③	同上	
10	都市の立地①	同上	
11	都市の立地②	同上	
12	沖縄の都市	同上	
13	島嶼都市－先島諸島のマナー	同上	
14	都市問題①	同上	
15	都市問題②	同上	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・講義中に課題を出す場面が多くあり、時間内でまとめて提出すること。 ・地図帳を持参して講義に参加すること。		
	評価 ・定期テスト (60点) ・平常点：講義中の課題提出 (40点) (出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」になる)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界の諸地域における地理的特性について、立地論の視点から理解することで、他の社会科学系科目（経済学・社会学・行政学など）の成果と有機的に繋がることことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井端 正幸	1年	授業終了後に教室で受けつけます。	

学びの準備	ねらい 近代以降の憲法は、基本的人権の保障と統治の機構を主な構成要素としている。その理念や基本原理をふまえた上で、現実の諸問題を考えなければなりません。この講義では、基本的人権の概念とその保障のあり方、日本社会における憲法問題、憲法をめぐる最近の諸問題、などを取り上げる予定です。	メッセージ まず「食わず嫌い」をなくそう。
	到達目標 身の回りにはさまざまな法的諸問題があることが理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	法・憲法とは何か — 国家と法、人権保障	
		時間外学習の内容	
	3	基本的人権の歴史 — 近代と現代	参考文献で関連したことを調べる (以下、同じ)
	4	二つの憲法と人権保障 — 臣民と国民	
	5	「平和に生きる権利」と安全保障 — 平和主義の現在	
	6	外国人に人権は保障されるか — 人権の享有主体	
	7	「法の下での平等」の現在 — 「平等」原則と人権保障	
	8	ビデオ「22歳の涙が生んだ“男女平等”」視聴	
	9	信教の自由と政教分離原則	
	10	表現の自由の規制と違憲審査	
	11	知る権利と情報公開	
	12	プライバシー権と個人情報の保護	
	13	営業の自由と財産権の保障	
	14	人間らしく生きる権利	
	15	教育を受ける権利と働く権利	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません（講義の際にレジюме・資料等を配付する予定）。ただし、日本国憲法の規定・条文が載っているものを持参することが望ましい(たとえば、以下の参考文献には巻末に日本国憲法の規定が資料として掲載されています)。 (1) 井端正幸・渡名喜庸安・仲山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社 (2) 永田秀樹・和田進編『歴史の中の日本国憲法』法律文化社 等		
	学びの手立て 知識や教養を身につけるために、さまざまな本をたくさん読むこと。		
	評価 (1) 評価の基本は学期末の論述試験とします。 (2) 必要に応じて、小テストを行うかレポートの提出を求めます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 興味や関心に応じて、いろいろな事柄を学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接・不可分な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、今の社会に即した憲法にするためにも憲法改正が広く議論となっている現在、有権者となるみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	憲法とは何か	テキストP3～10を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
8	平等権③	同上 & P55～59を読む。	
9	思想・良心の自由	テキストP30を読む。	
10	信教の自由	テキストP31～33を読む。	
11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。	
12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。	
13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。	
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第4版】』（有斐閣、2011年）（参考価格：1,600円＋税）加えて、各テーマごとにレジュメを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第4版補訂版】』（有斐閣、2014年）などを参照されると良いと思います。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。予習すべきテーマやテキストの該当箇所については、シラバス記載のものに加えて、各回の授業時にも指示します。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接・不可分な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、今の社会に即した憲法にするためにも憲法改正が広く議論となっている現在、有権者となるみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	憲法とは何か	テキストP3～10を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
8	平等権③	同上 & P55～59を読む。	
9	思想・良心の自由	テキストP30を読む。	
10	信教の自由	テキストP31～33を読む。	
11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。	
12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。	
13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。	
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第4版】』（有斐閣、2011年）（参考価格：1,600円＋税）加えて、各テーマごとにレジュメを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第4版補訂版】』（有斐閣、2014年）などを参照されると良いと思います。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。予習すべきテーマやテキストの該当箇所については、シラバス記載のものに加えて、各回の授業時にも指示します。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接・不可分な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、今の社会に即した憲法にするためにも憲法改正が広く議論となっている現在、有権者となるみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	憲法とは何か	テキストP3～10を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
8	平等権③	同上 & P55～59を読む。	
9	思想・良心の自由	テキストP30を読む。	
10	信教の自由	テキストP31～33を読む。	
11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。	
12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。	
13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。	
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第4版】』（有斐閣、2011年）（参考価格：1,600円＋税）加えて、各テーマごとにレジュメを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第4版補訂版】』（有斐閣、2014年）などを参照されると良いと思います。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。予習すべきテーマやテキストの該当箇所については、シラバス記載のものに加えて、各回の授業時にも指示します。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスの倫理	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	1年	hcrokinawa@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかり聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. ビジネスにおける倫理観の本質にアプローチし、自分なりの理解が出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること。 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標の設定
	2	ビジネスにおける倫理とは何か	ビジネスにおける倫理観を考える
	3	企業の社会的使命とは	企業の成り立ちと目的を理解する
	4	企業の存在意義とその価値について	企業の社会での存在意義を考える
	5	社会で働くことの意味・意義について	個人の職業観及び倫理観を考える
	6	事例紹介及びその補足・解説1	事例から、その本質を学ぶ
	7	事例紹介及びその補足・解説2	同上
8	事例紹介及びその補足・解説3	同上	
9	企業の経営理念とは	経営理念と理念経営について	
10	理念経営と社会貢献について	企業の社会的価値を考える	
11	個人の価値観と人生理念について	人生における目的について考える	
12	組織の目標と個人の目標について	ワークライフバランスについて	
13	従業員満足（ES）と顧客満足（CS）について	ES>CSの意味することとは	
14	これからの「ビジネス倫理」のありかた	時代のトレンドを把握する	
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布します。		
学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>		
評価	出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価をします。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、文化人類学の基本的な視点を学び、人間の文化的多様性と普遍性について理解することを目的とする。文化人類学は、異文化理解を通じて、我われにとって自明な枠組みを内省し、普遍的な人間理解へと到達することを目指す。本講義では多様なトピックの議論から、人間の多様性から普遍性の理解へと向かう道筋を具体的に示していく。さらに、近年の文化人類学のテーマとして、観光</p>	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>文化とは</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>フィールドワークと民族誌</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>映像鑑賞</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>親子関係の多様性</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>ジェンダーと生殖</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>通過儀礼</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>信仰と世界観</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>贈与交換</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>映像鑑賞</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>観光と開発</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>医療・病・身体</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>暴力と戦争</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>科学技術</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	文化とは		3	フィールドワークと民族誌		4	映像鑑賞		5	親子関係の多様性		6	ジェンダーと生殖		7	通過儀礼		8	信仰と世界観		9	贈与交換		10	映像鑑賞		11	観光と開発		12	医療・病・身体		13	暴力と戦争		14	科学技術		15	総括		16	試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	ガイダンス																																																			
2	文化とは																																																				
3	フィールドワークと民族誌																																																				
4	映像鑑賞																																																				
5	親子関係の多様性																																																				
6	ジェンダーと生殖																																																				
7	通過儀礼																																																				
8	信仰と世界観																																																				
9	贈与交換																																																				
10	映像鑑賞																																																				
11	観光と開発																																																				
12	医療・病・身体																																																				
13	暴力と戦争																																																				
14	科学技術																																																				
15	総括																																																				
16	試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など とくに指定しない。 講義時に重要な文献は随時紹介する。																																																					
学びの手立て																																																					
評価 出席状況・リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって総合的に評価する。																																																					

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-栗国 恭子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。または学内E-mail	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	この講義は、はじめて受講される方、また後期に開講される「文化人類学Ⅱ」継続受講する学生でも登録可能です。世界に暮らす人々の多様さと自分自身の文化（生活や価値観など）と比較しながら、豊かな「人間の在り方」興味を持つきっかけにしてください。
到達目標	19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。自然環境（海や照葉樹林帯）と文化の関りと多様な社会のあり様（トロブリアンと諸島スールー海、中国西南部）、異民族社会を繋ぐ空間認識、食や香り、技術・身体などのテーマを確認する。それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。幅広い視野を持つことの必要性や自身の考え・価値を豊かにできるようにする。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	同上
	3	現代の〈民族〉問題	文献③・④を確認
	4	文化人類学説史 約160年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	海に生きる人々① パプア・ニューギニア クラ交換 マリノフスキーの視点	文献①・④を確認
	6	海に生きる人々② 漂海民 スールー海バジャウの定住化と近代国家観	文献②・③・④を確認
	7	自然環境と文化① 照葉樹林文化（中国南部、西日本、沖縄）について	同上
	8	自然環境と文化② 現代の食文化（アジア・日本、グローバル化、文化評価）	日々の食事の種類・材料を確認
	9	自然環境と文化③ 香りの文化（歴史人類学の視点：丁子・竜涎香・ムスク）	日々の暮らしの香りとは考える
	10	自然環境と文化④ 東アジア・琉球の空間認識（風水・民俗方位ほか）	
	11	東アジアの民族文化② 中国西南部の少数民族の暮らし・多様な文化	中国の社会少数民族を調べる
	12	東アジアの民族文化② 中国西南部少数民族ナシ族の暮らし（伝統の保護）	同上
	13	造形技術と文化① 金属文化（中国ウイグル族、クバチ）、文化記録の視点	文献②・④を確認
	14	造形技術と文化② 東アジア・琉球の金属文化	
15	造形技術と文化③ 身体装飾・入れ墨（アイヌ・琉球・台湾・パヌアツ）	文献②・④を確認	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。重要な参考文献などは講義の中で紹介する。</p> <p><参考文献>①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①「履修の心得え」として、以下を注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 <p>②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。</p>

学びの実践	評価
	<p>「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1)関連科目 多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。</p> <p>(2)次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅行もおすすめ）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-阿利 よし乃	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文化人類学とは「文化」を通して人間と人間をとりまく社会を知ろうとする学問です。私たちが暮らすこの世界には様々な地域があり、そのなかではそれぞれの文化を持つ人々が暮らしています。本講義では、人類の共通性と多様性について「文化」をキーワードにトピックを設けて考えていきます。また、沖縄の事例の解説も行います。それらを通じて自文化や異文化を理解することを目指します。	文化の背景が異なる人々が接する場合、ある人にとっては当たり前のことが、またある人にとっては当たり前ではないことがあります。しかしその一方で、人類に共通する点もみられます。本講義ではそのような人類文化の共通性と多様性について取りあげ、異文化理解のための視点を学修します。
到達目標	文化人類学の「文化」の概念を踏まえて、世界各地の文化を捉えることができる。異文化を理解すると同時に自文化を知る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	文化とは何か、文化人類学とは何か	「文化」概念の復習	
3	文化人類学の歴史	文化人類学の歩みを理解する	
4	民族、人種、国家	諸概念の復習	
5	家族、親族(1)	家族・親族に関する諸事象の理解	
6	家族、親族(2)－沖縄の事例 DVD鑑賞	沖縄の親族の概念を理解する	
7	性と婚姻	性と婚姻をめぐる観念の復習	
8	フィールドワーク	フィールドワークの手法の検討	
9	生業	暮らしと生業について考える	
10	経済と互酬性	贈り物をめぐる慣行について考える	
11	宗教	概念の復習と事例の理解	
12	儀礼	同上	
13	死の捉え方	同上	
14	まとめ	これまでの講義の復習	
15	試験		
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義の際にレジュメや資料を配布します。 参考文献については講義の際に随時紹介します。		
	学びの手立て		
	履修の心構え 毎回の講義の最後に感想文を書く時間を設けます。		
	評価		
	①評価方法・割合 出席状況(10%)、講義の感想文(10%)、小課題(40%)、試験(40%)		
	②評価基準 講義の感想文では受講態度を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 文化人類学Ⅱ
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、グローバル化時代を生き抜くために必要な、世界の諸社会・文化の理解に役立つ「メガネ」を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを例に、人類社会・文化の多様性と共通点を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な理論(≡「メガネ」)をレビューすることで、世界の諸社会・文化の理解が「自文化理解の深化」もつながらることを学ぶ。</p>	<p>人文・社会科学における「理論」とは、事象をより説得的に理解・説明するための「メガネ」である。社会・文化人類学が用いてきた様々な「理論≡メガネ」の存在を知る者は、より多くの「世界(人類社会・文化)の秘密」を発見することができる。人類学理論によって発見された「秘密」は、あなたが限りある人生を生きていく上で、極めて有用なものとなるだろう。</p>
到達目標	<p>社会・文化人類学の諸理論(≡メガネ)に関する基礎的な知識を身につけ、人々が普段の生活では意識することが少ない「自文化」を含む世界各地の諸社会・文化の構造やメカニズム、すなわち「世界の秘密」を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	「文化人類学」とは何か——人類学と「異文化」理解	
	3	人類進化の歴史——地球/生物/人類の歴史	
	4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化	
	5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」、民族性	
	6	映像鑑賞——人類学者の仕事	
	7	機能主義(1)——「社会の仕組み」を考える	
	8	機能主義(2)——「社会関係の基礎」としての「親族」	
	9	構造主義(1)——発想の由来とエッセンス	
	10	構造主義(2)——構造分析とその影響力	
	11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編・『音楽の正体』	
	12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方	
	13	構造と実践——構造/歴史/主体性	
	14	日本の人類学——歴史と現在	
15	まとめ——人類学理論と人類社会・文化の理解		
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特になし。(毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する) ・主要参考文献は次のとおりである。 <p>綾部恒雄(編)2006『文化人類学20の理論』弘文堂 石川栄吉ほか(編)1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂 バーナード、A.2005『人類学の歴史と理論』明石書店</p>
----	---

学びの手立て	<p>「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。世界各地の社会・文化に関するニュース報道などに関心をもち、欧米だけでなくアジア/アフリカ/太平洋/中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもつ者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。</p>
--------	--

評価	<p>出席(30%)、筆記試験(70%)</p> <p>毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパー(感想、コメント、質問)の提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、多民族論、etc.</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は特定トピックにしぼり、文化人類学の専門的な視点と方法を養うことを目指す。具体的には「人と動物の関係」を切り口にして、現代社会において「食べる・生きる」ことの意味を問う。最終的には自らの人間中心主義的なものの見方を相対化し、より多様な人と動物の関係を捉える視点を養うことを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	現代社会と人間中心主義
	3	理論① 食をめぐる唯物論と意味論の論争
	4	理論② 動物機械論と動物靈魂論
	5	理論③ 動物人格論
	6	食をめぐる問題① 食の安全（狂牛病とクローン羊）
	7	食をめぐる問題② 生活習慣病と肥満
学びの実践	8	食をめぐる問題③ 動物の屠殺に対する差別
	9	食物／パートナーとしての動物① アニマル・ファクトリー
	10	食物／パートナーとしての動物② ペット家族論
	11	食物／パートナーとしての動物③ 韓国の犬食とナショナリズム
	12	人と動物の共生① 動物解放論とベジタリアン
	13	人と動物の共生② アニマル・ウェルフェア
	14	人と動物の共生③ アニマル・セラピー
	15	総括
	16	試験
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など とくに指定しない。 講義時に重要な文献は随時紹介する。	
学びの実践	学びの手立て	
学びの実践	評価 出席状況・リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	火2	2
	担当者 栗国 恭子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。または学内mail	

学びの準備	ねらい 文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	メッセージ この講義は、前期に開講される「文化人類学Ⅰ」を受講していない学生でも登録可能です。初心者に必要な「文化人類学とはどのような学問か」入門概論（前期と重複内容1～4週）も行います。前期から継続受講学生と共に安心して受講してください
	到達目標 19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。宗教研究における必要な用語を確認し、民族社会、現代社会との関りを、多彩な研究の切り口を確認する。現代の文化人類学が取り組む課題（観光・開発と少数民族社会・文化変化）を通して文化人類学の役割を確認する。 それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	同上
	3	現代の〈民族〉問題	文献③・④を確認
	4	文化人類学説史 約160年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	文化人類学と文化表象 民族博物館の資料と展示 植民地主義と異文化研究	文献②・④を確認
	6	宗教人類学① 「宗教」概念、アニミズム、	文献②・③・④を確認
	7	宗教人類学② 社会変動と宗教活動	同上
	8	宗教人類学③ 民族宗教と現代社会（「カルト」概念変化、宗教の政治利用）	同上
	9	宗教人類学④ 文化象徴と他界観 空飛ぶものと心意	象徴人類学・ギャーツを調べる
	10	宗教人類学⑤ 色彩と心意（東アジア・琉球）	
	11	宗教人類学⑥ レヴィストロースのクリスマス分析構造分析 米国と異文化社会	文献①・④を確認
	12	観光人類学① 「伝統」の概念、「伝統の創造」バリ・沖縄	文献③・④を確認
	13	観光人類学② 「文化は誰のものか」中国チベット社会と観光化の波	同上
	14	開発人類学① 開発（環境）問題と先住民社会の変化 ブラジル・カヤボ	同上
	15	開発人類学② 開発（環境）問題と先住（少数）民族 ブラジル・イゾラド	同上、ブラジルについて調べる
16	テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。重要な参考文献などは講義の中で紹介する。 <参考文献>①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など
----	---

学びの手立て	①「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 ②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。
--------	--

評価	「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。 (2) 次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅もおすすめです）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会をテーマに沿って法的な観点から見つめ、体系的に解説します。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、それに対して、解決する方法を自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題を取りあげてわかりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味、関心をもったテーマ、法的問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	法とは何か	テキストBreak①～⑦を読む。
	3	法と裁判	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	憲法入門①	テキスト1・2章を読む。
	5	憲法入門②	テキスト1・2章を読む。
	6	刑法入門①	テキスト6・7章を読む。
	7	刑法入門②	テキスト6・7章を読む。
	8	裁判員制度とは	テキスト6・7章を読む。
	9	死刑制度とは	テキスト6・7章を読む。
	10	2回～9回の復習の回、+αの回	これまでの範囲の復習。
	11	民法入門①	テキスト3～5章を読む。
	12	民法入門②	テキスト3～5章を読む。
	13	民法入門③	テキスト3～5章を読む。
	14	民法入門④	テキスト3～5章を読む。
	15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第4版】』（有斐閣、2014年）（参考価格：1,700円＋税）。加えて、各テーマごとにレジюмеを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などが有益です。		
	学びの手立て		
	普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。予習するべきテーマやテキストの該当箇所、方法例などは、授業時に適宜お伝えする予定です。		
	評価		
	授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会をテーマに沿って法的な観点から見つめ、体系的に解説します。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、それに対して、解決する方法を自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題を取りあげてわかりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味、関心をもったテーマ、法的問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	法とは何か	テキストBreak①～⑦を読む。
	3	法と裁判	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	憲法入門①	テキスト1・2章を読む。
	5	憲法入門②	テキスト1・2章を読む。
	6	刑法入門①	テキスト6・7章を読む。
	7	刑法入門②	テキスト6・7章を読む。
	8	裁判員制度とは	テキスト6・7章を読む。
	9	死刑制度とは	テキスト6・7章を読む。
	10	2回～9回の復習の回、+αの回	これまでの範囲の復習。
	11	民法入門①	テキスト3～5章を読む。
	12	民法入門②	テキスト3～5章を読む。
	13	民法入門③	テキスト3～5章を読む。
	14	民法入門④	テキスト3～5章を読む。
	15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第4版】』（有斐閣、2014年）（参考価格：1,700円＋税）。加えて、各テーマごとにレジюмеを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などが有益です。		
	学びの手立て		
	普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。予習するべきテーマやテキストの該当箇所、方法例などは、授業時に適宜お伝えする予定です。		
	評価		
	授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、これから各自の将来の進路に合わせて専門科目を学ぶ礎となる教養科目の一つだと考えています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会をテーマに沿って法的な観点から見つめ、体系的に解説します。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、それに対して、解決する方法を自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題を取りあげてわかりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味、関心をもったテーマ、法的問題について、自ら論理的に説明、議論する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの構成を確認する。
	2	法とは何か	テキストBreak①～⑦を読む。
	3	法と裁判	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	憲法入門①	テキスト1・2章を読む。
5	憲法入門②	テキスト1・2章を読む。	
6	刑法入門①	テキスト6・7章を読む。	
7	刑法入門②	テキスト6・7章を読む。	
8	裁判員制度とは	テキスト6・7章を読む。	
9	死刑制度とは	テキスト6・7章を読む。	
10	2回～9回の復習の回、+αの回	これまでの範囲の復習。	
11	民法入門①	テキスト3～5章を読む。	
12	民法入門②	テキスト3～5章を読む。	
13	民法入門③	テキスト3～5章を読む。	
14	民法入門④	テキスト3～5章を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第4版】』（有斐閣、2014年）（参考価格：1,700円+税）。加えて、各テーマごとにレジюмеを配布する予定です。参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などが有益です。		
	学びの手立て 普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。予習するべきテーマやテキストの該当箇所、方法例などは、授業時に適宜お伝えする予定です。		
	評価 授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ボランティアは、自発性と地域の社会問題・環境問題の発見やその解決にあります。その活動は自ら取り組みたい気持ちから出発し、その体験を通して地域の問題を解決する手法です。とりわけ、地域社会に根ざした相互扶助やNPO活動等より学んでいきます。</p>	<p>地域社会の課題から取り組んだ事例を紹介しつつ、学生の興味と参加をもとに学んでいきます。この授業をきっかけに少しでも地域の社会問題・環境問題、NPO活動に興味を持ってけると幸いです。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 標準的かつ入門的なボランティア論の用語を自分の言葉で説明できるよう目指します。 地域の相互扶助の基礎をもとに地域社会の課題へ目をむけるよう取り組みます。 地域の社会の課題を自ら調べ、わかりやすく説明できるようにします。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要説明及び学生からみたボランティアとは？	シラバスをよく読むこと
	2	もともとボランティアって何だろう	参考文献①を読む
	3	学生の興味とボランティア	自主学習①（新聞等で探そう）
	4	ボランティアにも歴史がある	自主学習②（発祥地を探そう）
	5	ボランティアが活躍する前の日本・沖縄社会の相互扶助の役割（1）	自主学習③（街で探そう）
	6	ボランティアが活躍する前の日本・沖縄社会の相互扶助の役割（2）	自主学習④（お年寄りから学ぼう）
	7	まちづくりとボランティア	自主学習⑤（新聞等で探そう）
8	文化・芸術・スポーツとボランティア	自主学習⑥（新聞等で探そう）	
9	教育とボランティア	自主学習⑦（新聞等で探そう）	
10	環境とボランティア	自主学習⑧（新聞等で探そう）	
11	災害とボランティア	自主学習⑨（新聞等で探そう）	
12	福祉とボランティア	自主学習⑩（新聞等で探そう）	
13	地域社会で根ざすボランティア活動とは（1）	宿題①	
14	地域社会で根ざすボランティア活動とは（2）	宿題②	
15	ボランティアの無報酬と報酬	レポート	
16	テスト・レポート	合計60点未満の人は再試（予定）	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】・授業中ではテーマに関するレジュメや資料等を配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 ① 奏辰也、『ボランティアの考え方（岩波ジュニア新書）』、岩波書店、1999年。 ② 金子郁容、『ボランティア—もうひとつの情報社会（岩波新書）』、岩波書店、1992年。 ③ 西條剛央、『人を助けるすんごい仕組み』、ダイヤモンド社、2012年。 		
学びの手立て	<p>【学びの手立て】・授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等を要する。 <p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行によってはボランティアに関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。 ・授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求める。その評価を以下のとおり設定する。 ・テストまたはレポート（50%）、課題発表（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、遅刻並びに無断欠席が5回以上になると「不可」とする。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目としては、「NPO入門」「協働社会論」「生涯学習概論」「環境文化論」「社会福祉入門Ⅰ・Ⅱ」「博物館教育論」等があげられる。 ・次なるステージとしては、受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その社会体験を取り組んでほしい。とりわけ興味ある分野のテーマを関連づけ、地域社会、NPOと大学で習得してほしい。
-------	--